

港湾振興便り



2026.1

第224号

*:**

目 次

*::~

1 ポートエッセイ 一次世代太陽電池「ペロブスカイト太陽電池」に期待ー

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

●能登半島地震の復旧・復興「見える化」の取組

(北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室)

●アマモに東京湾再生のメッセージを込めて

～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～

(関東地方整備局 港湾空港部)

●四国中央市での「みなとウォーキング & RORO 船」見学に参加しました！

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

*:

1 ポートエッセイ 一次世代太陽電池「ペロブスカイト太陽電池」に期待—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 ハー ～

*:

明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、本年も引き続き、港湾振興に向け、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

今年の冬も新潟市などの日本海側では、冬型の気圧配置により雪や雨、曇りの日が続く。テレビで放映される太平洋側の太陽の光を見るたびに、うらやましく思う。

そのような冬の日照時間が短く、積雪の影響を受ける地域において期待されている次世代太陽電池が「ペロブスカイト太陽電池」である。

このたび、新潟市は東京大先端科学技術研究センターと「ペロブスカイト太陽電池」の普及に向けた連携協定を締結した。先端研の知見を借りながら事業者と連携し、技術普及に取り組み、脱炭素社会の実現を目指したい。

この電池は弱い光でも発電効率が高いとされており、日照時間が短い地域に適している。加えて、薄膜化が可能でフィルム状に加工できるため軽量かつ柔軟で、従来のシリコン製太陽電池では設置が難しかった曲面や窓ガラス、建物外壁などにも応用可能である。

電池の主原料はヨウ素で、新潟県は国内主要産地のひとつであり、原材料を輸入に頼らないことが可能だ。サプライチェーンを海外に依存せずに確保できるため、エネルギー安全保障の観点からもメリットのある次世代太陽電池である。

一方、従来の事業用太陽光パネルは国の支援を受け、「クリーンエネルギー」として普及し、各地で建設が相次いだが、近年は大規模な設置による森林伐採や土砂災害リスク、景観破壊、廃棄物問題などの「自然破壊」が問題となってきた。環境保護のための再生可能エネルギーが、逆に自然破壊を招くという矛盾が生じている。先般、国はメガソーラーへの支援制度を廃止する方針を打ち出した。国家戦略として「ペロブスカイト太陽電池」を推進していくという。再生可能エネルギー戦略は転換期を迎えている。

港湾においても現在、脱炭素の取り組みとして洋上風力発電の導入に向けた整備や、水素・アンモニアなどの受入環境の整備が進められている。加えて、軽量で設置自由度の高い特性を活かせる「ペロブスカイト太陽電池」も、脱炭素を目指す港湾施設において有効ではないか。

脱炭素に向けて様々な再生可能エネルギーが推進されているが、この太陽電池の可能性に大いに期待したい。

:

2 トピック

:

●能登半島地震の復旧・復興「見える化」の取組

(北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室)

令和6年能登半島地震では、開湯1200年を誇り能登半島を代表する観光地である和倉温泉も、未曾有の被害を受けました。和倉温泉は、北陸随一の「海の温泉」として、海に面した護岸沿いの温泉旅館から眺める七尾湾の絶景と、豊富な塩分を含む泉質と薬効が昔から高く評価され、古くから多くの観光客に愛されてきました。

このような温泉街で大きな被害を受けた施設の1つが護岸であり、北陸地方整備局では令和8年度中を目途に可能な限り早期の復旧を目指して、護岸復旧工事を進めています。

再開した旅館からは、「一時は再開を断念しようかと思ったほどの被害だったが、発災半年後から護岸復旧工事の現地調査・現地着手・本格化と、インフラ復旧の足音が背中を押し、再開に踏み切った」と語られています。

現在、旅館は20軒中9軒が一般客の受入を再開していますが、これから建物を解体し、再開時期は未定の旅館も存在します。

このような状況の中で、「復旧の見える化」が地域の復興の力になると考え、能登港湾空港復興推進室では、令和7年8月に、護岸復旧工事の様子を安全に見渡せる工事見学エリアを開設しました。

旅館や周辺店舗など17カ所にチラシやポスターを掲示して観光客へ周知するとともに、見学エリアには物見台やデジタルサイネージを設置して、これまでの歩みや現状をより理解していただけるよう努めています。

また、見学エリアは、和倉温泉観光協会主催の復興ツアーにも組み込まれ、地元ボランティアによる説明が行われるなど、全国から足を運んでいただく皆様には、復興の歩みも感じつつ、和倉温泉で心も体も癒していただく良い機会になることを期待しています。



デジタルサイネージと物見台



現場視察時に活用



能登港湾空港復興推進室のHP・SNS

●アマモに東京湾再生のメッセージを込めて

～アマモメッセンジャーが関東地方整備局を訪問～

(関東地方整備局 港湾空港部)

令和7年12月24日(水)に横浜市立金沢小学校と横浜市立みなとみらい本町小学校の児童たちがアマモメッセンジャー(アマモに東京湾再生のメッセージを込める者)として関東地方整備局を訪問し、「東京湾を海の生き物でいっぱいにしてほしい」との願いを込め、アマモの種を届けてくれました。

金沢小学校は、総合学習でアマモの再生活動に長年取り組んでおり、毎年アマモの種を届けてくれます。環境保全活動に力を入れているみなとみらい本町小学校も参加し、「海との関わりについての SDGs 活動」を通し、「生き物や環境を守っていくために、自分たちでどのようなことができるかを考えていきたい」というメッセージを届けてくれました。

平成19年に始まったこのセレモニーも19回目を迎え、金沢八景－東京湾アマモ場再生会議、NPO法人海辺つくり研究会、東京湾の環境をよくするために行動する会、ハマの海を想う会、東京湾 UMI プロジェクト参加団体(セブン-イレブン記念財団・東洋建設・マルハニチロ・東京ガス・日本テレビ・東亜建設工業・朝日生命保険・五洋建設・パナソニックグループ・明電舎)など、アマモ場再生活動に取り組んでいる方々、約60名にご参加いただきました。

関東地方整備局では、アマモメッセンジャーとして活躍する子どもたちに感謝し、届けられたアマモの種を東京湾再生の活動につなげて大きく育ててまいります。



集合写真



アマモメッセンジャーから森副局長へ
アマモの種の贈呈

●四国中央市での「みなとウォーキング & RORO 船」見学に参加しました！

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

令和7年11月16日(日)、物流の要である“三島川之江港”にて「三島川之江港 みなとウォーキング & RORO 船見学」が実施されました。(※主体:四国中央市産業祭実行委員会、金子国際ターミナル協同組合)当事務所は「みなとのお仕事紹介」ブースにて、どのような課程を経て“港”が完成するのかを説明！いしづちの船体模型も使用し、海洋環境整備事業についても学んでもらうことができました。



松山港湾・空港整備事務所のブース



RORO 船を見学する参加者



開会式の様子



松山港湾・空港整備事務所長の挨拶

::*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :*:*:*:*:

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL : 03-5776-0630 FAX : 03-5776-0631

e-mail : bcf06323@nifty.com

*: